

令和7年度総合計画施策評価シート(令和6年度実施分)

基本姿勢3 にぎわいを創る「交流のしま」	
政策2 しまを支え、利便性を高める交通基盤づくり	本文P88～89

基本方針	<p>便利で安全な住民生活と円滑な経済活動の確保や地域間相互の連携強化を図るため、幹線道路や生活道路について計画的な整備を図ります。</p> <p>また、住民の利便性の向上及び島外からの観光客等の交通手段を確保するためにも、関係機関と連携しながらバス路線や航路の維持・安定化に努めます。</p>
------	---

3-2-① 地域特性に応じた安全で快適な道路整備	担当課	建設課
--------------------------	-----	-----

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>○幹線道路の整備促進については、令和6年度末までの1・2級町道の改良目標率を74.0%と定め、計画の見直しを行いながら、その計画に基づき道路改良を進めている。</p> <p>○集落間道路や集落内の生活道路の整備についても、計画に基づき、整備事業を実施している。</p>	
SDGsとの関係性	 	<p>【選定理由】</p> <p>災害に備えインフラ整備は不可欠で、特に主要な幹線道路の整備を進める。</p>
評価(問題点とその要因)	<p>○道路事業については、毎年国費要望を行っており、起債の活用も併せ計画的に実施している。</p> <p>○道路用地の取得については、名義人の死亡により相続が発生しているものが多く、分筆及び所有権移転登記に苦慮している。</p> <p>○現在は各地区から道路修繕等整備全般的な要望が多く、利用状況、緊急性、事業費等を総合的に判断し、有利な財源を活用しながら計画的に実施していく必要がある。</p>	
今後の取組方針	<p>○国費について、継続して県(国)に要望していくとともに、重要性(必要性)・経済効果等を考慮しながら、計画的に整備を進めていくことにより、住民の生活環境の改善、安全・安心確保を目的とし、事業の早期完成を目指す。</p>	

2-1. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率
					R2	R3	R4	R5	R6	
	町道の改良率		%	73.0	73.2 73.1	73.4 73.2	73.6 73.2	73.8 73.6	74.0 73.6	60.0%
	《成果指標の進捗状況》				担当課	建設課				R2
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った									C
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。									R3
1★	<p>浜ノ浦道土井線については、国庫補助事業として平成23年度から着手しているが、事業開始時は毎年の国費配分が要望額に及ばなかったこと、近年では人件費及び資材等の高騰に伴い進捗が伸びない状況である。また、三本松工区を石油立地交付金事業として実施し、供用延長は伸びたものの目標を下回った。また、浜ノ浦飯ノ瀬戸線については供用ができていない状況である。</p>									C
まち	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み									R4
	①課題									C
	<p>浜ノ浦道土井線については、人件費及び資材等の高騰により思うように進捗が上がっていない。浜ノ浦飯ノ瀬戸線については、岩盤の掘削に費用と時間がかかり供用が遅れている。</p>									R5
	②必要な取り組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載									C
	<p>集落自治機能の低下により、維持・管理が困難である町道については、廃道を視野に検討を行い、維持管理費の権限を図る。</p>									R6
										C

2-2. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率
					R2	R3	R4	R5	R6	
	町道の舗装率		%	79.1	79.3 79.1	79.5 79.2	79.7 79.2	79.9 79.3	80.1 79.5	40.0%
2 ★ まち	《成果指標の進捗状況》				担当課	建設課				R2
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った									C
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。									R3
	舗装率については、町道全路線の舗装済延長を実延長で除して算出しているが、全路線の中には、昔からの集落間を結ぶ山道なども多く、舗装新設のみの事業は行っていないため、実質的には町道新設または国・県道から移管された道路の延長増により舗装率が伸びている状況である。 令和6年度は既設舗装の打ち替えと補修のみで新設がなかったため目標を下回った。									C
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み									R4
	<u>①課題</u>									C
	上記のとおり、今後も舗装する予定(必要)のない山道等の町道もあるため、舗装率を上げていくのは困難な部分もある。									R5
<u>②必要な取り組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載									C	
今後は、交通不能や利用のない道路を状況調査し、町道としての見直しを図っていく。									R6	
									C	

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>○住民の生活航路として重要な役割を担っていることから、住民の生活に支障をきたすことのないよう、また、観光等で島へ来訪される方の利用を通じて島の活性化が図られるよう、関係機関及び航路事業者と連携し、海上交通の利便性の確保やサービスの充実について協議を行いました。また、航路・航空路運賃低廉化や五島沿岸航路整備補助事業により利用者の利便性向上や航路維持・確保に取り組みました。</p>
SDGsとの関係性	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>10 人や国の不平等をなくそう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> </div> </div> <p>【選定理由】 海上交通の維持に努め、持続可能な人間居住を実現する。</p>
評価(問題点とその要因)	<p>○各航路事業者は船員の確保に苦慮しており、航路の維持・確保を図るためには、官民が連携し、船員の職業としての魅力向上を図るなど、担い手の確保に努める必要があります。また、陸上交通と海上交通の接続については、ダイヤ設定が必ずしも利用者の利便性に配慮されたものとなっていない状況が見受けられることから、利用者ニーズを的確に把握し、官民が連携して公共交通サービスの利便性向上に取り組む必要があります。</p>
今後の取組方針	<p>○利用者のニーズ及び各航路事業者の状況を的確に把握したうえで、関係機関と連携し、航路の維持および船員の確保に向けた施策を講じるとともに、公共交通サービスの利便性向上に取り組めます。併せて、陸上交通との接続や貨物輸送の維持確保についても、関係機関と連携を図りながら、協議を進めます。</p>

2. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
1 まち	航路利用者数(年間)		人	441,111	440,000	440,000	440,000	44,000	440,000	84.0%	
	《成果指標の進捗状況》					担当課	地域づくり課			R2	
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										C
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	航路事業者の経営・営業努力及び観光客誘致の施策により、コロナ禍以降、利用者は増加傾向にあるものの、人口減少や観光客等の利用者数の減少により、目標値を上回るまでには至りませんでした。										C
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										R4
	<u>①課題</u>										C
	人口減少の進行に伴い、航路の利用者数は減少傾向にあります。また、コロナ禍以降、観光需要は一定程度回復しているものの、依然としてコロナ前の水準には至っていません。さらに、利便性や運賃等の要素が利用者の満足度や再利用意向に影響を与えている状況です。										R5
	<u>②必要な取り組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										B
	関係機関と連携して観光資源と連携したプロモーションの実施や、イベント時の臨時便運行などによって誘客を促進します。また、フェリー・高速船と陸上交通(バス等)との接続の見直しや、交通情報の一元化により利便性の向上を図ります。										R6
										B	

1. 基本施策(主要施策) 1次評価

これまでの取組	<p>○地域公共交通の維持と町民の利便性向上を図るため、交通事業者と連携しながら、予約型乗合交通「SmartGOTO」の運営・運行支援、バス待合所の環境整備、運転士の確保など、持続可能な交通体制の構築に向けた各種施策に取り組みました。</p> <p>○地域の地理的・人口的特性を踏まえた、効率的な交通ネットワークの構築についても検討を進めています。また、バス運行損失補償やバス路線維持費補助事業、運転手確保支援事業補助事業等により、バス路線の維持や担い手不足対策に取り組みました。</p>
SDGsとの関係性	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>10 人や国の不平等をなくそう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> </div> </div> <p>【選定理由】</p> <p>陸上交通の維持に努め、持続可能な人間居住を実現する。</p>
評価(問題点とその要因)	<p>○運転士の高齢化や後継者不足により、将来的な運行体制の維持が懸念されています。また、SmartGOTOの利用促進にはさらなる周知や予約方法の簡素化が求められており、特に高齢者層への支援が課題となっています。こうした状況を踏まえ、交通事業者との連携をさらに強化し、運転士確保や利用者ニーズの把握が必要です。</p>
今後の取組方針	<p>○継続的に利用者ニーズを把握し、それぞれの地域に適した移動手段を確保していくために、各種ツールを活用しつつ、関係機関や地域住民と連携してコミュニケーションを図り、地域の実情に応じた利便性の向上に取り組みます。</p>

2. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
	バス利用者数(年間)		人	356,629	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	56.7%	
					299,246	304,221	275,676	238,437	226,650		
1 まち	《成果指標の進捗状況》				担当課	地域づくり課				R2	
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										C
	①取組状況、結果、分析 ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	人口減少と高齢化の進行により、公共交通の利用者数は年々減少しており、当初の目標を下回る状況が続いています。このような中でも、地域における移動手段の確保を図るため、交通事業者との連携を強化し、必要な施策を継続的に実施しています。										B
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										R4
	①課題										C
	人口減少の進行により、公共交通の利用者数は年々減少傾向にあります。持続可能な公共交通を実現するため、利用促進と財政負担の軽減を両立する新たな仕組みづくりが求められています。										R5
②必要な取り組み ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										C	
地域住民と協働して公共交通の在り方を検討し、共創の気運を醸成し、持続可能な交通の実現に向けた基盤づくりを進めます。併せて、官民連携により、新たな交通ネットワークの構築に向けた仕組みづくりを推進します。										R6	
										C	

2次評価委員会からの評価・意見等

幹線道路や生活道路の整備については、国県の動向に左右されることもありますが、整備の必要性を考慮し適切に整備していく必要がある。資材の高騰により計画どおりの進捗が図れなかったが計画的な整備の継続を推進していく必要がある。陸上、海上の公共交通の維持については、コロナ禍以降特に厳しい状況が続いていますが、各地区の実情にあわせてICT等先進技術を取り入れた新たな公共交通サービスを導入するなど、安定した公共交通の維持に向け事業を推進する必要がある。